

女川町復興まちづくり住民説明会（水産加工団地） 議事録

日 時：平成24年1月20日（金） 18：30～20：30

場 所：魚市場管理棟2階会議室

対象者：

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、西尾係長、鑑氏、木村主査、神山事務員
水産課長、建設課長、税務課長、町民課久坂氏

復建技術コンサルタント 岩渕

1.挨拶 須田町長

2.資料説明：復興対策室 赤間室長、

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
 - ・災害公営住宅整備事業
 - ・防災集団移転促進事業
 - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

- Q. 道路について、山の上を通すとか、もっと複数あっていいのではないかな。
- A. その通りだと思う。いないのほうこれからメインになっていく。石巻市の屋敷浜線に繋がる道路も復興計画に位置付けられている。半島側ときたうら側については、県に対して道路改修の要請を出している。きょうがもり線という林道はあと3、4年で完成するように計画を立ててもらっている。県道石巻雄勝線は2メートル幅を広げ、冬季封鎖にならない道路にする。いない、まのの方の林道についても国に計画を提出している。万が一の際も外にちゃんとつながる道路体系を作っていきたい。
- Q. 2、3年内の原発稼働することを想定して、避難道路という名目で強力に進めてほしいというのが、若い世代の希望。
- A. 原発では、地震に耐えられる整備はまずやらしてもらわなければならないが、道路が重要だと思う。半島道路についてはまだ場所をここだとは言えないが、考えてもらっている。町から外の方は、なるべくまっすぐいけるような線を引けるか県で検討している。
- Q. 黄色の部分を最後に埋め立てるようになるのか。
- A. いつも冠水してしまうところがまず先と考えている。
- Q. 何年ぐらいかかるのか。
- A. 2年以内に造成を高台の方では終わらせる。災害公営住宅については200戸を2年以内に提供できるような体制を取っていきたい。
- Q. 海岸の方の商業地帯、工業地帯ではいつ頃から建物の許可がもらえるのか。
- A. 本格的にということでは、防災集団移転と絡めてということになる。皆さんとは早めの協議の機会を持って行きたい。なるべく早く商売をしていける環境を整えるよう努力している。
- Q. いしやままでの街灯を早くつけて欲しい。
- A. 県が管理者になっている。積極的に、知事、土木事務所をお願いしていく。
- Q. 灯台の防波堤は防災の面で使えるのではないかな。
- A. 防波堤はまず原形復帰という形で進むことになっている。技術的に関わってもらっているコンサルタントにそういう知恵がどこまでできるか相談してみる。

- Q. 若い人たちがなるべく早く仕事に就けるような産業策があれば聞かせてほしい。
- A. 例えば土地利用を考えて行く中で色々な新しい雇用の場、若い人たちが関心を持って頑張れるビジネスができるような展開を考えていければいいと思っている。今の段階で商業地区には複合施設あるいはモール。
スマートタウンとかエコタウンという言い方がある。これまでとは別の領域の分野開拓も考えられる。
- Q. JRはどうなるのか。
- A. JRはちゃんと来てもらえます。水につかって地盤沈下しているところがあるので、海岸際を県で直して、JRで線路を上げる。ここまで来るのが2年ちょっとかかるかなと言われている。
- Q. 石浜の防波堤が残っていることから、橋脚だけで考えられないか。
- A. 何十年かに1度は必ずある津波に対して、きちんと守りきれぬ強度、強さを盛り込み設計、実際の施工にはしていきたいと思う。
- Q. 新しい住宅エリアに建てたいという人が殺到すると思う。優先順位はあるか。
- A. 優先順位というのは今ははっきり言えないが、地域性は意識しつつ、公平性、急ぎたい人にも一定程度供給できるような仕掛け、やり方は作っていきたい。
次に意向調査する場合には、災害公営住宅か、自分で建てるか、どこに住みたいかということも聞くので、統計を確認できるのでそれをとらえつつ反映させていきたい。

以 上